

子どもの手形 クジラ彩る

神戸 日本福祉大生 ワークショップ



布に手形や足形をつけて楽しむ子どもたちと宇野さん(左から2人目)＝神戸町神戸で

子どもたちに自由に造形を楽しんでもらおうと、神戸町在住で日本福祉大教育学部心理学部四年の宇野呼夏さん(ニホ)が八日、同町神戸でお絵描きワークショップを開いた。

地面に縦四十五センチ、横十センチの布を広げ、赤や青など八色の絵の具を用意。午前と午後に分かれて町内の園児や小学生二十五人が参加し、手足に絵の具を付けて自由に布を彩った。

宇野さんは、子ども発達学が専門の松下明生教授の下で学び、教員を目指している。布にはクジラをかたどってマスキングテープを貼り、色塗りが終わった後にテープをはがすと白いクジラが現れる仕掛けに。

「子どもらしい自由な塗り方をしてくれて、自分も勉強になった」と振り返った。イベントを見守った松下教授は「コロナ禍で我慢が続いていた子どもたちの喜びが、表情に表れていた」と語った。参加した神戸小学校六年の

は「絵の具の上に寝転がり、思いっきりできたのが楽しかった」と笑顔だった。

(柳田瑞季)